

KVMスイッチ(4ポート)[PG-SB205], KVMスイッチ(8ポート)[PG-SB206]

(1) 概要

本装置は、1 セットのモニター／キーボード／マウスを複数のサーバで共有するための切替器で、4 台／8 台のサーバを切り替えることができます。本装置をカスケード接続することにより、接続できるサーバ数を増やすことができ、最大構成は 8 ポートKVMスイッチ 9 台で 64 台のサーバを切り替えることができます。

本装置は、外付装置または通常設置領域への搭載に加え、スタンダードラックの縦置設置領域への搭載が可能です。また、ラック・コンソール格納キットを別途手配することにより 17 インチ ラック・コンソール[PG-R4DP1]への内蔵搭載として使用できます。



図1 外観写真 (4ポート、8ポート共通)

(2) 特長

① サーバインターフェースとして、USB をサポート

本装置では PS/2 に加え USB 接続もサポートしています。

オプションケーブルの選択のみで簡単に USB サーバを接続できます。

PS/2 インターフェースを持つサーバは、PS/2 インターフェースのみをサポートし、USB インターフェースのみを持つサーバは、USB 接続をサポートします。

② フラットディスプレイ装置へ搭載可能(PG-R4DP1 のみ搭載可能)

本装置1台を 17 インチ ラックコンソール[PG-R4DP1]へ内蔵することが可能。(図 4 参照)

1Uのスペースで4台／8台のサーバ切り替え機能及びコンソール機能が実現でき、ラックスペースを有効に使用できます。

③ スタンダードラックの縦置設置領域への搭載

スタンダードラックでは縦置設置領域に本装置を搭載することにより、通常のラックスペースを占有しないため、ラックの拡張性に貢献します。(図 6 参照)

④ ホットキー切り替え機能

キーボードで接続サーバを切り替えること(ホットキー切り替え)ができます。

ホットキー切り替え時は、OSD(On Screen Display)表示され接続サーバの電源投入状態が確認でき、

上下カーソルキーまたは数字キーにより接続サーバを選択、切り替えることができます。

⑤ カスケード接続機能

本装置は、2段までのカスケード接続が可能ですので、将来のシステム規模拡大へ柔軟に対応することが可能です。

なお、4ポート KVM スイッチと8ポート KVM スイッチの混在接続も可能ですので、接続サーバの台数にあわせた最適な構成を構築できます。

また、従来モデルの KVM スイッチ PG-SB201 及び PG-SB202 との混在接続も可能です。

但し、マスターが PG-SB203/PG-SB204/PG-SB205/PG-SB206 でカスケード接続用ケーブルが PG-CBLDP12(PS/2 1.8m)のみサポート。

* PG-SB104、PG-SB105 との混在接続はできません。(詳細は留意事項の⑥を参照)

(3) 仕様

名称		KVMスイッチ(4ポート)	KVMスイッチ(8ポート)	(参考:従来モデル)
型名		PG-SB205	PG-SB206	PG-SB203, PG-SB204
接続台数		4台	8台	←
カスケード接続		4ポートKVMスイッチをマスターとした場合 最大構成はスレーブに4台の8ポートKVMスイッチを接続した場合で32台のサーバが接続可能 8ポートKVMスイッチをマスターとした場合 最大構成はスレーブに8台の8ポートKVMスイッチを接続した場合で64台のサーバが接続可能		←
サーバとのインターフェース仕様		・PS/2キーボード/マウスインターフェース(OADG準拠) ・USB 1.1準拠(Full Speed対応、HIDコンポジットデバイス)		← USB1.1(FullSpeed)
接続コネクタ ※詳細は図2を参照	共通 コンソールポート	モニタ:VGA D-Sub15Pin メス ×1 キーボード:PS/2 ミニDIN 6Pinメス ×1、USB Aタイプ ×1 マウス:PS/2 ミニDIN 6Pinメス ×1、USB Aタイプ ×1		←
	サーバポート	D-Sub15Pin メス ×4 (モニター/キーボード/マウス共通)	D-Sub15Pin メス ×8 (モニター/キーボード/マウス共通)	←
ホットキー切り替え		ホットキーモード(キーボードでサーバを切り替える機能)は2種類あり、OSD(On Screen Display)表示が異なる。各モードに移行後、数字キー、ファンクションキー、カーソルキーで選択し、Enterキーで決定、Escキーでキャンセルとなる。詳細は取扱説明書をご確認ください。 * ホットキーのキー操作は変更できます。 1) ホットキーモード1 Ctrlキー+Altキー+Shiftキー同時押下またはScroll Lockキーを連続2回押下することによりホットキーモードとなる。 2) ホットキーモード2 Ctrlキーを連続2回押下することによりホットキーモード2となる。 ※ホットキーモード中はキーボード(切り替えのためのキーを除く)及びマウスは使用できない。但し、設定変更によりマウスをホットキー切り替えに割り当て可能。		←
オートスキャン		ホットキーモード移行後、数字キーの0を押下することによりオートスキャンモードに移行する。一定の周期で電源が投入されているサーバを自動的に切り替えることが可能。切替周期は上下カーソルキーにより3/5/10(初期値)/20/40/60秒に変更可能。		←

表示およびボタン ※詳細は図3を参照	なし 切替等は、OSDにより行います。		Select スイッチ (×4) または Select スイッチ (×8) Select スイッチにより、 ポートを直接選択。 Auto Scanボタン ボタンを押下でオートス キャンモードになる。
VCCI	クラスA	クラスA	クラスA
質量	約1.6kg	約1.7kg	約 0.7kg(SB203) 約 2.1kg(SB204)
外形寸法 (W×D×H)	432 mm×125 mm×42 mm (H にゴム足 3.0 mm含まず)		195mm×114mm×43m m (SB203)[ゴム足含 まず] 437mm×140mm×45m m (SB204)[ゴム足含 まず]
入力電源	AC100V-240V単相、 50/60Hz、平行2ピンアース付き NEMA5-15P準拠		AC100V
消費電流	AC 100V -AC240V/ 0.3A		1.5A (SB203) 0.3A (SB204)
消費電力	7.3 W	7.6 W	7.5 W (SB203) 8W (SB204)
添付品	保証書 1部、取扱説明書 1部 ゴム足 4個(外付使用時) 電源ケーブル(2m) 1本 ラック取付け金具 2個 ラック取り付け金具用ネジ(M3×6) 6本 ラック取り付け用ネジ(M6×15) 4本 ケーシナット 4個		保証書 1部、取扱説 明書 1部 ラック固定用ネジ 4個 ゴム足 電源ケーブル(2m) 1 本

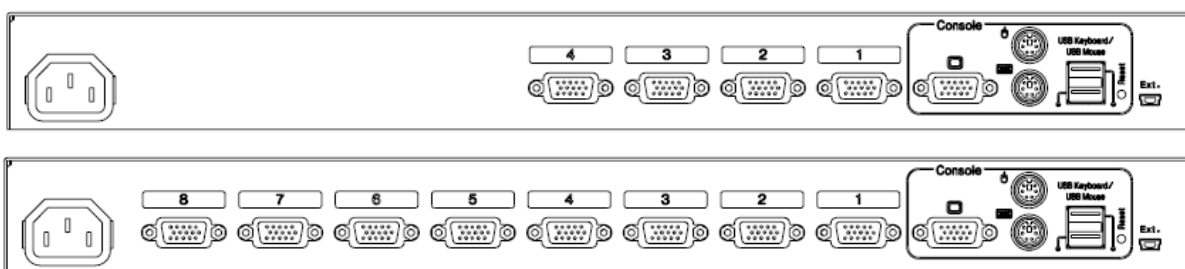


図2 装置背面図 (上段 : 4ポート、下段 : 8ポート)



図3 装置正面図 (4ポート、8ポート共通)



図4 本装置を17インチ ラック・コンソール(RC25)に搭載時の外観写真

注)17インチ ラック・コンソール(RC25)「PG-R4DP1」搭載時はラック格納キット(PG-R1CK30)の別途手配が必要となります。

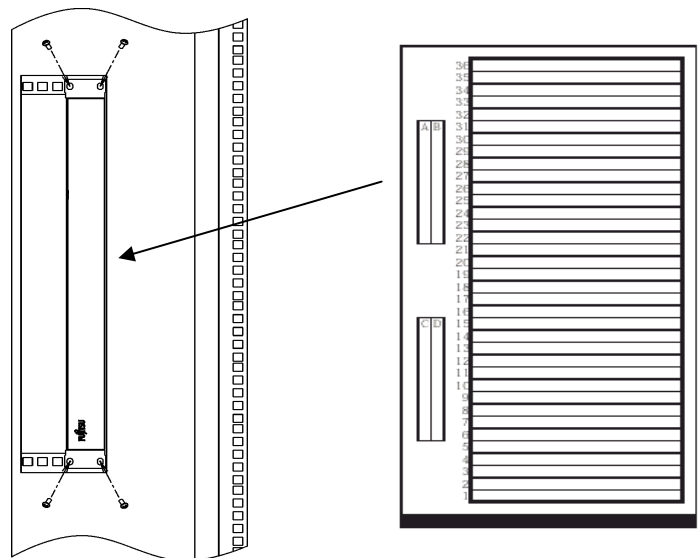


図6 ラック縦設置領域への搭載写真と取り付け概要

(4) オプション関連(別途手配品)

名称	型名	仕様・適用		(参考: 従来モデル)
		KVMスイッチ(4ポート) [PG-SB205]	KVMスイッチ(8ポート) [PG-SB206]	PG-SB203 PG-SB204
KVM ケーブル (PS/2)	PG-CBLDP12 PG-CBLDP13 PG-CBLDP14	本装置とサーバを接続するために必要な専用接続ケーブルで長さは1.8m/3m/5mがある。カスケード接続で本装置同士を接続する場合はPS/2用1.8m(PG-CBLDP12)を使用すること。 ※カスケード接続の本装置分と接続サーバ台数分の合計数分のケーブルが必要。 例:本装置1台で4台のサーバを接続 → 4本(0+4)必要 本装置3台で9台のサーバを接続 → 11本(2+9)必要		同左
KVM ケーブル (USB)	PG-CBLDP15 PG-CBLDP16 PG-CBLDP17			
ラック・コンソール格納キット	PG-R1CK30	17インチ ラック・コンソール(PG-R4DP1)の背面に搭載するキット。 取り付け金具5個、ケーブル(VGAx1本、PS/2 x2本、USBx1本)から構成されます。		—
200V用電源ケーブル	PY-CBP201	AC200V対応電源ケーブル(NEMA L6-15) 丸型プラグ。ケーブル長3m。UPSに接続可		—
200V用電源ケーブル	PY-CBP202	IAC200V対応電源ケーブル(EC603200-C14) PDU接続用。UPSとの接続は未サポート。ケーブル長3m。		—
200V用電源ケーブル	PG-CBLPU04	AC200V対応電源ケーブル(NEMA L6-15) 丸型プラグ。ケーブル長3m。UPSに接続可		—
200V用電源ケーブル	PG-CBLPU05	IAC200V対応電源ケーブル(EC603200-C14) PDU接続用。UPSとの接続は未サポート。ケーブル長3m。		—

(5) 規格の取得状況

安全規格	UL 60950-1, 1st Edition
電気用品安全法	対象外(添付およびオプション電源ケーブルに関しては適合品を採用)
電波規格	VCCI クラス A
RoHS 指令	対応済み
J-MOSS (日本版 RoHS)	対象外
グリーン購入法	対象外

(6) 接続形態

接続形態は、図 7 をご参照ください。

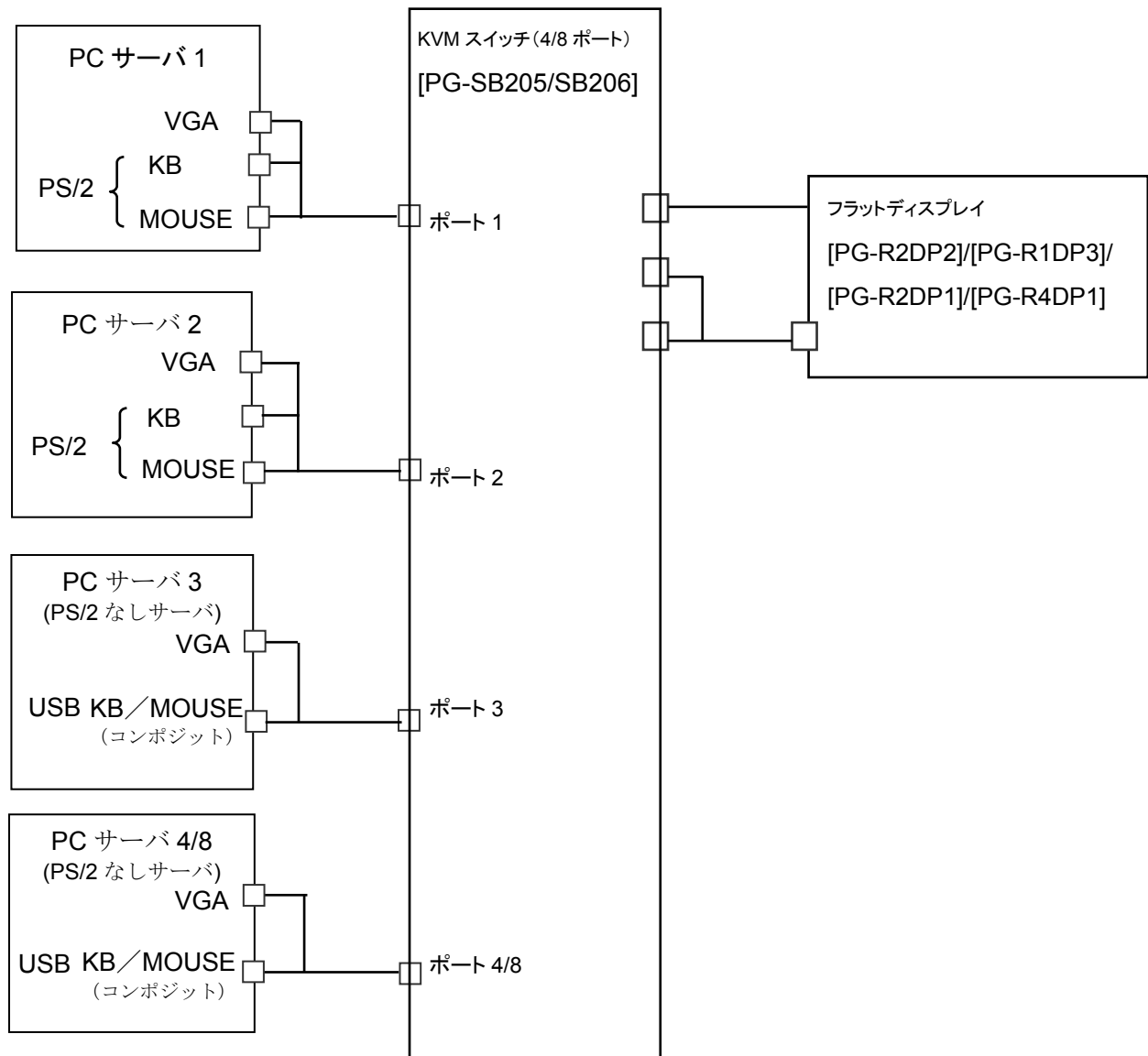


図 7 接続形態図

(7) 留意事項

- ①KVM スイッチおよび KVM スイッチに接続されている機器(フラットディスプレイ、モニタ、キーボード、マウス)交換について
KVM スイッチおよび KVM スイッチに接続されている機器(フラットディスプレイ、モニタ、キーボード、マウス)は、電源投入したままでは交換できません。交換を行う場合は、接続されている全てのサーバ(ブレードサーバが接続されている場合は、ブレードシャーシも含む)と全ての機器の電源を切断する必要がありますので、ご注意ください。

電源を切断しない場合には、装置の破損、誤動作の原因となることがあります。

- ②サーバの USB インターフェースの使用について

PS/2 インターフェースを持つサーバは、PS/2 インターフェースのみのサポートし、USB インターフェースのみを持つサーバは、USB 接続をサポートします。

- ③KVM スイッチのラック搭載について

ラックの通常設置領域への搭載(水平方向)は、背面のみの搭載になります。(前面への搭載はできません。)

なお、操作パネルは分離できません。

- ④KVM スイッチと KVM ケーブルの接続については、下表を参照願います。

		PG-SB205 PG-SB206	PG-SB203 PG-SB204	PG-SB201 PG-SB202	PG-SB104 PG-SB105
KVM(CRT/KB) ケーブル	PG-CBLDP17 PG-CBLDP16 PG-CBLDP15	○	○	×	×
	PG-CBLDP14 PG-CBLDP13 PG-CBLDP12	○	○	×	×
	PG-CBLDP11 PG-CBLDP10 PG-CBLDP09	×	×	○	×
	PG-CBLDP08 PG-CBLDP07 PG-CBLDP06	×	×	○	○
	PG-CBLDP04 PG-CBLDP03 PG-CBLDP02	×	×	×	○
カスケード接続	PG-SB205/206	○ *1	○ *1	○ *2	×
	PG-SB203/204	○ *1	○ *1	○ *3	×
	PG-SB201/202	○ *2	○ *3	○ *4	○ *4
	PG-SB104/105	×	×	○ *4	○ *4

○:接続可能 ×:接続不可

*1:KVM ケーブル(PG-CBLDP12)にて接続することでカスケード可能です。

*2:KVM スイッチ(PG-SB205/206)をマスターとして、KVM ケーブル(PG-CBLDP12)にて接続することでカスケード可能です。

*3:KVM スイッチ(PG-SB203/204)をマスターとして、KVM ケーブル(PG-CBLDP12)にて接続することでカスケード可能です。

*4:KVM ケーブル(PG-CBLDP06)にて接続することでカスケード可能です。

- ⑤システム構成図(外付編)のKVMスイッチ使用時の留意事項について

PRIMERGY(旧サーバ)とKVMスイッチの接続可否に関する表で×非サポートと記載されている組み合わせは、基本的には評価が未実施のためです。

以上